

主体的・協働的に、学びを深める児童の育成 ～キャリア教育を中心としたカリキュラム・マネジメントを通して～

熊本市立出水南小学校 教諭 藤本祥太

要 約

昨今、教科内容とともに学習の基盤となる資質・能力を育成することが求められているため、キャリア教育を中心としたカリキュラム・マネジメントを行って外国語科の学習を展開し、主体的・協働的に、学びを深める児童の育成を目指すことにした。そのため、児童が解決したいと本気で思えるパフォーマンス課題の設定や、ルーブリックを用いた評価を明確に位置付けることで、児童の学びに向かう力を支えるようにした。

本実践を通して、課題と評価の両輪が明確に作用し合い、課題の解決に向けて自ら学び、豊かに学び合う児童の育成につながるということが明らかになった。

《キーワード》 外国語科 カリキュラム・マネジメント パフォーマンス課題
ルーブリック 学習過程

1 授業の概要

「英語でも自分の気持ちってこんなに伝えられるんだ。」

これは、本実践を終えた児童がつぶやいた一言である。日本語とは違う言語を用いて難しさを味わいながらも、思いを伝えるために試行錯誤した結果、伝わった喜びを実感していたのである。

このような児童が育ったのは、外国語科単独での取組ではなく、教科横断的な視点で大きな単元を設定し、それぞれの教科等の数時間だけはなかなか到達することのできない学びに踏みこむことができたからである。「生成 AI」なども徐々に普及してきている中で、どれだけ自分の思いを込めて伝えられるかという点が非常に重要になると考えられる。そこで、6年生3学期のキャリア教育の学びを関連付け、カリキュラム・マネジメントとして行った「大きな単元の設定」のもと、「学びに没頭できる課題設定」、「学習過程の工夫」、「ルーブリックを用いた評価」を中心に実践に取り組むことで、自分の思いを中心に友達と学び合いながら、学びを深める児童が育つことが明らかとなった。

2 成果と課題

課題として捉えていた2点についてのアンケート調査を再度行くと、学びを改善しながら学習する姿が大きく伸びていることがわかる(図1)。また、授業参観で保護者の方に伝えた後の児童の振り返りの記述には、思いを伝えた喜びや充実感であふれているものも見られた(図2)。言語事項の習得とともにそれらを活用した表現力の高まりにもつながったのだと考えられる。

カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた授業改善の一つとして、本実践は効果的であったが、関連付けた学びを展開する上では実践の蓄積も必要である。抜かすことのできない教科内容等の整理等も行いながら、より豊かな学びを展開できるよう、今後も実践を継続していきたい。

3 主な参考文献

- 文部科学省(2018)、『小学校学習指導要領解説 外国語科編』
- 前田康裕(2020)、『まんがで知る未来への学び3』。さくら社

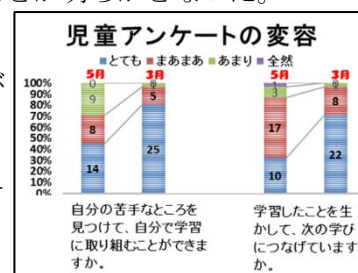


図1 アンケート結果の変容

今日は、本番の授業参観でいつもより緊張して最初は反応とかができなかったけど後からはちょっと肩が抜けていきました！何より保護者の方に自分の夢に向かってどれだけ本気なのかはもちろん伝えられたし、6の4で過ごしたことが大きく影響しているんだよ！って伝えられたのが嬉しかったです。それに、前まではタブレットを結構観ていたけど今回は見なくても伝えたすぎて言葉が湧き出てきました！

図2 授業参観後の児童の感想